

市立病院に新設

形成外科ってどんな診療科？

患者さんがより身近な地域で専門的な治療を受けられるよう、市立病院では今年4月に形成外科を開設しました。これにより、他の診療科と連携した手術もできるようになります。傷をきれいに早く治す専門科「形成外科」についてご紹介します。

【市立病院病院総務課経営総務担当 ☎ (52) 1111】



日本創傷外科学会
マスコットキャラクター
「なおりん」

体の表面全てが治療対象

形成外科は生まれながらの疾患や、病気・けがなどによる傷や変形を手術主体に治療改善する診療科で、頭や顔面を含め体の表面全てが治療対象です。他の診療科と異なり、年齢や性別、扱う体の部位を限定していません。あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能だけではなく形態的にもより正常に、より美しくすることで、みなさんの生活の質 "Quality of Life" の向上に貢献しています。

他の診療科とも連携

市立病院では2016年に乳腺外科を開設し、乳がん患者さんの治療を行ってきましたが、形成外科の開設で、これまで市立病院では対応できなかった乳房切除後の再建までの治療が可能になりました。その他にも皮膚科や整形外科、眼科、小児科などさまざまな診療科と連携して手術を行います。

主な対象疾患

- 熱傷(やけど)
 - 顔面骨骨折、軟部組織損傷などの顔面外傷
 - 拷滅創(鈍的外傷により生じた皮膚の損傷)、切断指などの四肢外傷
 - 副耳、小耳症(耳の変形やつぶれた状態)、多合指症などの小児先天性疾患
 - 皮膚良性・悪性腫瘍
 - 乳がん術後の乳房再建、傷あと、ケロイド
 - 褥瘡(床ずれ)、治りにくい傷
 - 眼瞼下垂症(上まぶたが垂れ下がった状態)
- など

形成外科の外来診療日は月・水・木曜日の午前です。受診に関する詳しい内容は市立病院医事課 ☎ (52) 1111へお問い合わせください

別棟の内覧会を開催



7月1日(月)の市立病院別棟(管理棟)竣工式に先駆け、内覧会を開催します。申し込みは不要ですのでお気軽にご来場ください。

日時 6月12日(水)13時～16時

受付 市立病院別棟1階

問合 市立病院病院総務課用度施設担当

☎ (52) 1111



形成外科は、傷治療のプロフェッショナル

形成外科 三上太郎科部長

「どのような時に形成外科を受診するのか」と疑問に思う方がほとんどだと思いますが、「このような症状は形成外科へ」と簡単に説明できない点が形成外科の特徴です。ある形成外科の教授は「形成外科は外科の患者さんが最後に行き着くところだ」と言います。それほど守備範囲が広く、形成外科が対応する体の部位や疾患は多岐にわたります。

形成外科を簡単に言うと「傷の外科」。「子どもが転んで顔に傷ができてしまった」、「カミソリで切ってしまい出血が止まらない」などで受診される方多くいます。市立病院のような地域に根差した病院では、紹介患者さんのおほかに、このような救急受診の外傷に対応することも必須です。

また、一つの病状を改善するための手術方法が一つではなく、いくつかの選択肢を提示した上で患者さんと相談しながら決めることが比較的多いです。そのため、結論が出るまでに時間がかかることがあります。よく考え、お互いに納得してからの手術を心掛けています。

プロフィール：

横浜市立大学附属病院の形成外科を中心にいくつかの地域基幹病院等において形成外科診療を経験し、今年4月より市立病院形成外科科部長に着任。医学博士、横浜市立大学医学部形成外科客員准教授であるとともに、一般社団法人日本形成外科学会形成外科専門医、一般社団法人日本熱傷学会熱傷専門医の専門性資格を保有。「患者さんの現状に合った診療、治療の提供」を念頭に日々診療に当たっている。